

## 新聞を活用した教育活動の実際

えびの市立加久藤小学校  
教諭 的場 輝行

### 1 はじめに

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。「知識基盤社会」の特徴としては、

- 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む。
- 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。
- 知識の進展に伴って、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる。
- 性別や年齢を問わず参画することが促進される。

などが挙げられるが、このような変化の激しい時代を担う子どもたちには、「課題を見いだし解決する力」、「知識・技能の更新のための生涯にわたる学習」、「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など、変化に対応するための能力（生きる力）をはぐくむことがより一層重要になっている。

平成23年度から全面実施となる新学習指導要領においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成、さらに主体的に学習に取り組む意欲と学習習慣の確立や言語活動の充実が求められている。

このような中、指導すべき内容として「新聞」が明確に位置付けられ、「新聞を活用した授業を行う」ことが盛り込まれている。教科書に記載されている内容だけではなく、日常の出来事の中から学習内容に関連のある記事を取り上げることで、児童の興味・関心を高めることができるのではないかと考え、新聞記事をスクラ

ップして掲示する「NIE（Newspaper in Education）コーナー」を設置した。



【NIE（Newspaper in Education）コーナー】

「宇宙」「環境」「生物」「化学」の4つの分野ごとにスクラップしていくことにより、教科書の内容との関連を図りやすくすることができる。また、理科室前の廊下掲示板を設置場所として活用したことにより、授業がある学級は、学習の始まりと終わりに必ず見ることができるとともに、理科の専科配当がない学年の児童も見ることができるようになるため、理科に関する興味・関心を高めることにつながるものとする。

### 2 実践事例

- (1) 第5学年理科 「台風と気象情報」  
「雲と天気の変化」
- (2) 第6学年国語 「伝え合おう、わたしの意見」
- (3) 日記指導

### 3 具体的取組

- (1) 第5学年理科 「台風と気象情報」
  - ア 単元の目標
    - 日本の夏から秋にかけて、南の海上

から北上してくる台風の動きや進路について、気象情報を活用してその特徴をとらえてまとめるとともに、台風のもたらす大雨や風による災害などについて新聞等を活用して調べる活動をとおして、台風の特徴やそれに伴う災害についての見方や考え方をもつようにする。

イ 新聞の活用方法

- 新聞各社（宮日、朝日、読売、西日本、毎日、日経）の天気欄から予想図や衛星画像を切り抜き、日付順に並べる。
- 台風の進路を調べ、予想図や衛星画像に記入していく。



ウ 授業の実際

- 普段から新聞の天気欄を見ている児童はあまり多くはなく、天気予報の情報はテレビから収集している割合が高いということから、予想図の見方や衛星画像についての説明をまず初めに行った。
- 予想図や衛星画像を日付順に並べる



ことにより、台風の進路や雲の動きの連続性がイメージしやすくなり、天気は西から変わるということを理解することができた。

エ 授業後の感想

- 6社の新聞を比較することにより、それぞれの紙面に工夫が凝らされていることや、取り上げている内容に特徴がみられることなどを理解することができた。また、気象情報欄には予想図や衛星画像だけではなく、月齢や紫外



線強度などさまざまな情報が盛り込まれていることも知ることができ、新聞を生活に生かすということへの意識付けにもなった。

(2) 第6学年国語 「伝え合おう、わたしの意見」

ア 単元の目標

- 自分の考えや意図が伝わるように、事実と感想・意見との区別や資料の提示の仕方を工夫して話す。
- 話し手の意図を考えながら聞く。

イ 新聞の活用方法

- 6社の新聞の中から自分が興味をもった記事を切り抜き、ノートに貼る。自分が選んだ記事の内容について簡単な感想や意見をノートにメモしておく。
- 集めた新聞記事の中から自分が今一番みんなに伝えたいと思う記事を選び、

スピーチメモを作成する。



#### ウ 授業の実際

- 第6学年の児童についても普段から新聞をよく読んでいる児童は少なかったため、まずは新聞に慣れるということから取り組みを進めた。
- 興味をもった新聞記事について、自分の考えをスピーチで発表するという学習の流れを押さえ、記事を集める際の視点を明確にさせた。
- 自分の興味を引く記事は見つけれられるが、その記事の内容について自分がどう思うか、どのようなことをみんなに伝えたいのかという視点で選ぶと、なかなか記事が見つけれられないという児童も見られた。

#### エ 授業後の感想

- その記事から何を読み取り、自分なりの考えをまとめ、何を伝えようとするのかということを実践させるためには、やはり読解力を身に付けさせる必要を感じた。また、新聞には基本的には読み仮名が付いていないので、漢字の読みなど言語事項についても力を高めていくことが重要である。

### (3) 日記指導

#### ア 指導のねらい

- 新聞記事をとおして日本や世界の動きに目を向けさせるとともに、文章を書くということへの習慣付けを図る手

立てとする。

#### イ 新聞の活用方法

- その日の日記を書く題材としての新聞記事を教師が選び、帰りの会で児童に提示する。

#### ウ 活動の実際

- はじめは「～がおもしろかった」「すごいと思った」などの感想が多かったが、記事を読む際の視点として「その記事を読んで自分はどう思ったか」ということを意識させながら繰り返し取り組ませたことにより、自分なりの考えを盛り込んで文章を書くことができるようになってきた。

#### エ 実施後の感想

- 日記指導においては、活動のマンネリ化を防ぐためにも毎日の題材（話題）づくりが課題の一つである。児童が意欲的に書く活動に取り組むかということを考えるとき、書く題材を工夫することはとても大切である。新聞記事を日記の題材に活用することは、児童の新聞に対する興味・関心を高めるだけでなく、書く活動に意欲的に取り組ませるうえでも効果的であったと考える。

### 4 実践を終えて

- 6社の新聞を比較することをとおして、それぞれの紙面に工夫が凝らされていることやさまざまな情報が盛り込まれていることを確認させることができ、新聞を生活に生かすということへの意識付けを行うことができた。
- 地域的话题を意識的に取り上げて児童に提示することにより、自分たちの住む地域に目を向けさせるきっかけをつくることができた。